

古事記めぐり旅

身近な場所にある古事記ゆかりの地をめぐってみませんか？

新コーナー

賣太神社

古事記の立役者 希代の語り部が鎮座する古社

国の始まりを記した、日本で現存最古の書物『古事記』。その誕生は、希代の語り部「稗田阿礼なくしては語れませぬ。天武天皇の舎人（腹心の部下）であった稗田阿礼は、「一度見たもの、聞いたことは忘れない」天才的な記憶力の持ち主であったと言われています。28歳の時に天武天皇の勅命を受け、各地に伝わる神話や伝承、歴史を記した『帝記』や『旧辞』などを暗記。30数年を経た元明天皇の時代にそれを太安万侶に口伝えし、『古事記』を編纂、完成させました。

この稗田阿礼を主祭神に祀るのが賣太神社で、「学問の神様」「お話の神様」



「賣太神社」
 大和郡山市稗田町319
 FAX 0743-52-4669

- ① 賣太神社
- ② 稗田環濠集落

として広く信仰を集めています。ともに祀られるのは、『古事記』の有名エピソードにも登場する二神。天の神が地上に降りた「天孫降臨」の際、天と地の境目で神々を出迎えた、道案内の神「猿田彦命」と、その妻でもあり「天岩戸」に隠れた天照大御神を見事な踊りで招き出したとされる、芸能の女神「天宇受賣命」です。社の地は代々、天宇受賣命とする猿女君の一族、稗田氏の居住地であったと伝わります。

ところは室町時代から続く大和の代表的な環濠集落の内。濠を渡れば『古事記』ゆかりの古社が、いにしへの歴史とともにたたずみます。



ひえだ かんご
「稗田環濠集落」
 東西約260メートル、集落をぐるりと濠が囲む。環濠がほぼ完全に残る集落としては、全国有数の規模を誇る。



あらい さい
「阿礼祭」
 毎年8月16日に開催。祭りの後に「阿礼さま音頭」が始まり、地元の女兒が愛らしい花笠、浴衣姿で踊る。

大古事記展

五感で味わう、愛と創造の物語

今秋、奈良県は多くの皆さまに『古事記』の豊かさを心ゆくまで、そして楽しく深く味わっていただける展覧会を開催します。このコーナーでは、「大古事記展」の展示情報等を紹介していきます。お楽しみに！

特別展「語り継ぐココロとコトバ 大古事記展」
 — 五感で味わう、愛と創造の物語 —

10月18日(土)～12月14日(日)

奈良県美術館(奈良市) [主催]奈良県、朝日新聞社

観覧料 一般:800円(600円) 大・高生:600円(400円) 中・小生:400円(200円)

※()内は20人以上の団体料金
 ※身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳をお持ちの方と介助の方1人は無料。
 ※外国人観光客はパスポート提示により無料。付添の観光ボランティアガイドの方も無料。
 ※留学生は無料入館パスポート(まほろばパス)提示により無料。

奈良県ならの魅力創造課
 ☎0742-27-8975 FAX 0742-27-7744